

プロ・ギタリストの
 二に練習、二に練習、
 三四がなくて、五に練習
 原点はここにある

ROME WAS NOT BUILT IN A DAY

匠の道

5



宮脇俊郎

兵庫県生まれ。ビートルズ、クイーンに影響を受けギターを始め、23歳頃からセッション活動を開始。これまでに「究極のギター練習帳」「最後まで読み通せるジャズ理論の本」など教則本、DVDを多く手がける。現在は練馬区で宮脇俊郎ギタースクールを運営しながら、iPhoneアプリ「miyametro」を監修するなど、幅広く活動している。

匠のアドバイス

- ・練習は各指を均等に動かすところから
- ・本番はじけるために、練習はしっかり

弾きやすいんですけど、カッティングすることが多いので、その整合性でこのピックを使っていることが多いですね。
 ■いきなり早いフレーズから弾いてしまうと「何かバランス崩れるな」という感じがするので、各指均等に動かすところから始めますね。流れとしては今回紹介したようなスケール練習を30分程度やったら、オケを流しながらアドリブを弾いたりすることが多いですね。アドリブを弾く時のオケはメトロノームを使ったり、Band in a Boxという便利な自動作曲ソフトにコードを入れてバックを作っています。家でギターはセミアコやアコギを弾いていることが多いので生音で弾いているのですが、自分のスタジオではそのままアンプを鳴らしていますね。サスティーンが違ってきちゃいますので。

■結局、仕込み念入りに本番はじけるというのが表に立つ人の心構えの1つだと思うんです。なので、練習はきちんとやっておいて、その上で本番バーンといく。逆に言えば本番はじけるためには、それだけの練習をする必要がある訳です。毎日の地味な練習も、本番のためだと思って頑張ってくださいと思います。

■弦はエリクサーの0.10-0.46のセットを使っています。ピックはジムダンロップの0.71mmのピンクのものです。ソロとかを弾く時にはジャズ3みみたいな堅いピックの方が

毎日の小さな積み重ねがいずれ積もって大きな成果として実を結ぶ。これは楽器演奏でも同じだ。とは言っても、少しでも楽しんで上達できないものか…なんて考えてしまうのはアナタだけではないはず(笑)。そこでプロのギタリストに日頃のトレーニングのコツなどを聞いてみよう！というのが本連載だ。今回は数々のギター本でもお馴染みの宮脇俊郎氏に普通の練習について聞いてみた。尚、その華麗なるプレイは動画で配信しているので、ぜひホームページにアクセスして欲しい。

パターン1：3連符で弾いていくクロマチック・トレーニング

パターン2：Gコンティミによる4連上昇・下降フレーズ

パターン3：コード・アルペジオの練習フレーズ

※Guitar Proにはレコーディング機能はありません。

PRESENTED BY
 e frontier
 イーフロンティア
<http://music.e-frontier.co.jp/product/gp/>

GuitarPro6

ギター/ベース/ウクレレ/バンジョーなどフレット楽器独特のタブ譜や演奏表現などを含んだ楽譜の作成、専用音源によるリアルな再生、トレーニング機能など、画期的な機能を多数搭載。



サイトには今回のフレーズを演奏している映像とGuitarPro6のデータがあります。プロ・ギタリストの運指の映像を観るもよし。パソコンの画面上でTAB譜を見ながら、テンポを変えて、音を聴きながら、練習することもできます。【Windows/Mac版 体験版】
<http://music.e-frontier.co.jp/gp6/>

